
リアルで救世主。

nao

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リアルで救世主。

【Zコード】

N6217Z

【作者名】

nao

【あらすじ】

翼はまったく予測していなかった。自分が、こんな最低で最高で冷血で暖かく、どうしようもなく孤独で楽しい物語に巻き込まれることなど。

謎の転校生ー?（前書き）

短編を見ておられない方でも、楽しんで読むひとのできる作品にしているつもり（笑）です。

謎の転校生！？

（第一話）謎の転校生！？

「山城美緒です。よろしくお願ひします」

彼女・・・転校生、山城美緒は、刹那の曇りもなく、かといって、明るいわけでもなく。非常に『普通』の生徒だった。淡々とまるで漫画の様な定番・・・かとしても、現実でやる者は数人しか見た事が・・・でも、数人は多いのか？？？そう、悩ませるあいさつをし、空席に着いた。なんと、そこは僕、五条翼の席の隣だった。山城美緒は、特別に美人というわけでもないが、それなりの美少女だった。普通と特別の間だろう。なので翼はあたふたし、可愛い彼女の機嫌をそこねない様に。頑張つてみようとおもつた。昔から、翼は少し浮いた人間を見ると、すぐ顔色を窺がつてしまつのだ。

「よ、よろしく？山城さん。」

「・・・よろしく。」

「・・・あれ？翼は、呆気にとられた。普通、そこは、『よろしくね。あなたは？』などと。聞いてくるところではないのか。みじんも自分に興味がなさそうな彼女を見て、翼はため息を着いた。

キーンコーンカーンコーン・・・

「きあつけ！？？礼」

〔 ありがとうございました 〕

次は数学かと、いそいそと準備を始める翼に、山城は歩寄った。
そして、思いがけない言葉を口にした。

「あの。 . . . 」 . . . 五条？教科書忘れて、見せてくんない？」

「え・・・あ、い・い・よ？」

？？？

どういうわけか、何故か翼に興味のなさそうな美緒だったのだが、
左隣の女ではなく、忘れたものを、翼に借りようというわけだ。

どうしてだらう？？

翼に、一つの考えが浮かんだ。1、気になつていてる。

2、ただのパシリ。

・・・まあ。どちらなのだ！？彼は息をのみ、チャイムが鳴つた
と同時に、自分の机についた彼女の机をはつと見た。

なにかが始まる。さう予感して。

（第一話）山城美緒の沈黙。

「あのや、パン買いたいから、つこてきて。」

「え？」

・・・今、僕、平凡で普通でださくて格好よくなくて、運動神経平凡で。なにやらせても平均な僕が。

転校生の山城美緑と名乗った美少女の部類に入るほら
ず一人はいるかんじの女の子に、食堂に誘われるなんて。

夢だ。

そうだ、夢だよ。

だつて、クラスで一番イケメンの男が声をかけても全然興味を示さなくて、僕にだつて最初、そつつけなかつた女が、何故、なぜ、ナゼ、如何して、どうして、ドウシテ。

「あの、さ。僕はいいよ」

・・・は?

「山城……、男に人気あるし……そつちと食べてきなつて。……
ど、ドツキリなら。僕、面白い反応期待できないよ……？……とに
かく、本当の事、言つて。」

「……………」と、まつたく話しがつかない

「だからあ！・・・・・ドッキリか、なんかなんだろお！？僕、君に
気に入られるような、かつこいい奴じゃないし・・・。」

ふうん。・・・あんた、この学校で、そーゆー設定なんだ。

・・・?
せつてい?

「暗くて根暗で、普通で平凡。…………ついでにやーと、良こみつこ
パシられちゃう役割でしょ」

11

ほら。今日会つたばかりの人にこんな事言われるくらい、僕はダメなんじやあないか。

あー・・・もう、これたからいやなんだ。
だから話しかけるなって言ったのに。

「・・・まあ、こゝよ。そんな顔するなり、食堂はあれりある。・・・
・ねど、デジキことかじやないか?」

「えつ」

「私の意志。……つてことだ。やよな」「ひばり」

「……はあ？」

そう言い、山城美緒階段をくだり、僕には見えなくなつた。私の意志って……きつと、嘘だよね。そう思いながら、教室に戻る。

僕が数十メートルの廊下を歩いてくるときだつた。

「ねーねつ！」

振り返ると、予想通り。

山城だつた。僕にとつちやあ迷惑な話し。山城になつかれたみたいだ。先生に言つて縁を断ち切る事もできるが、僕はあまり悪い気はしなかつた。

・・・かかわりたくないけど、可愛い女の子になつかれて、嫌な男子は居ないだろう。う。僕もそんな感じだ。

適当な話しきをしながら、僕と山城は教室まで並んで歩いてきた。・・・しかし。教室に入った一歩のところで、ぼくの足は止まつた。

「ぶはははーーきつもー」

「オタクってんだ、こいつ

「え……？」

いつも真ん中で固まっている、クラスの中心的ギャル女5人が、僕の引き出しをあけている。

・・・女たちの手にあるのは、漫画。

僕の描いた、漫画だ。

「投稿しないによ～？」

「オタクく～んつ。キモいんだけど、お～？」

「三條くんて～。」んつつな趣味なんだねえ？」

「女とかあ、・・・怖いほど可愛いよねえ？しかも、体つき。普通の女と変わりないよねえ？なんでこんなにい～。可愛くかけんのお？・・・もしかしてえ、本物の女、換金とかして、モデルってんワケ～？」

「えー！ ハッチ～～～！ あはは～

「まあ。確かに、してそりだよねん。あんた～」

「へんたい～っぽ～い

「やつだあー！ きもオーー？」

・・・・・・・・・・ いつもの事。

僕がため息をつき、教室を出ようとした、刹那

「ふう〜ん。確かに、女の子、可愛いね」

「えつ・・・山城！？」

山城が僕の漫画を丁寧に読んでいる。

「ねつ！ そー思ひでしょつ おー？ 美緒」

・・・誰が・・・美緒なんて呼んでも良いなんていつた?」

え・・・?

「だいたいさ、あんたうあ。」この作品、そーゆーHロロ田線でしか評価できないの?」

「なつ・・・！－あんた、なんなわけ！？」

「山城美緒です。」

「つざあ！――」うちの味方じゃないの！？最悪！？詐欺、馬鹿！？

あんたをターゲットにするから。・・・許せない。うやうやしく。

うざいっ消えなさいよ

「あはははっ、大変すばらしー。・・・つかさあ、テメエが最悪なんだよ。ギャルかなんだかしんねーけど、人のもの、趣味、馬鹿にできるほどえらいワケ！？はっ。笑わせるな。換金なんて、お前らみたいにそーゆう事想像するほうがエロいっつーの！…だいたい、この作品、おもしろいよ？自身もつていーよ。」

「・・・あ、ありがとう？」

しーん。まだだ。二度目だ。・・・今度は、あの口だけは誰にも負けないギャル軍団に勝つた女、山城美緒を恐れている、沈黙だな。まあ、それもそのはず。あのギャル軍団も、みごとに腰抜け状態。

・・・山城美緒。

僕はこの女が、よく分からぬ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6217z/>

リアルで救世主。

2011年12月26日21時45分発行